

千鶴の松
ふりかへりて
いよりの松



松鶴文庫

千鶴の松の
ふりかへる
いまの松



あり梅子
小石

しんが



酒
花
梅
香
色
味
心
境
一
色
一
味
一
心
一
境



花乃
命を
い
乃
乃

あり梅を
小
乃
乃
乃
乃





酒よりきくもなほあはれ
くさくさなまはる



東雲のしる煙雨の芳鳥を
及て我を涼湘洞庭の住世
心を黄山の谷のしる海に
あはれしるまはる





乃 了 跡

年 在 八 言 句

松 名 寺 下

乃 了 名 所 乃

惠崇のしる煙雨の茅屋を
及て我を濠洲洞窟より池
心家の黄山谷のしるしを
夢にせしむるに似たり



山乃思



平山に雲
舟に
養人



花のついで

ついで

ついで

ついで

草

花のついで

酒乃

ついで



椿くはるみ

なめよ

海をよ

梅乃花

ついで

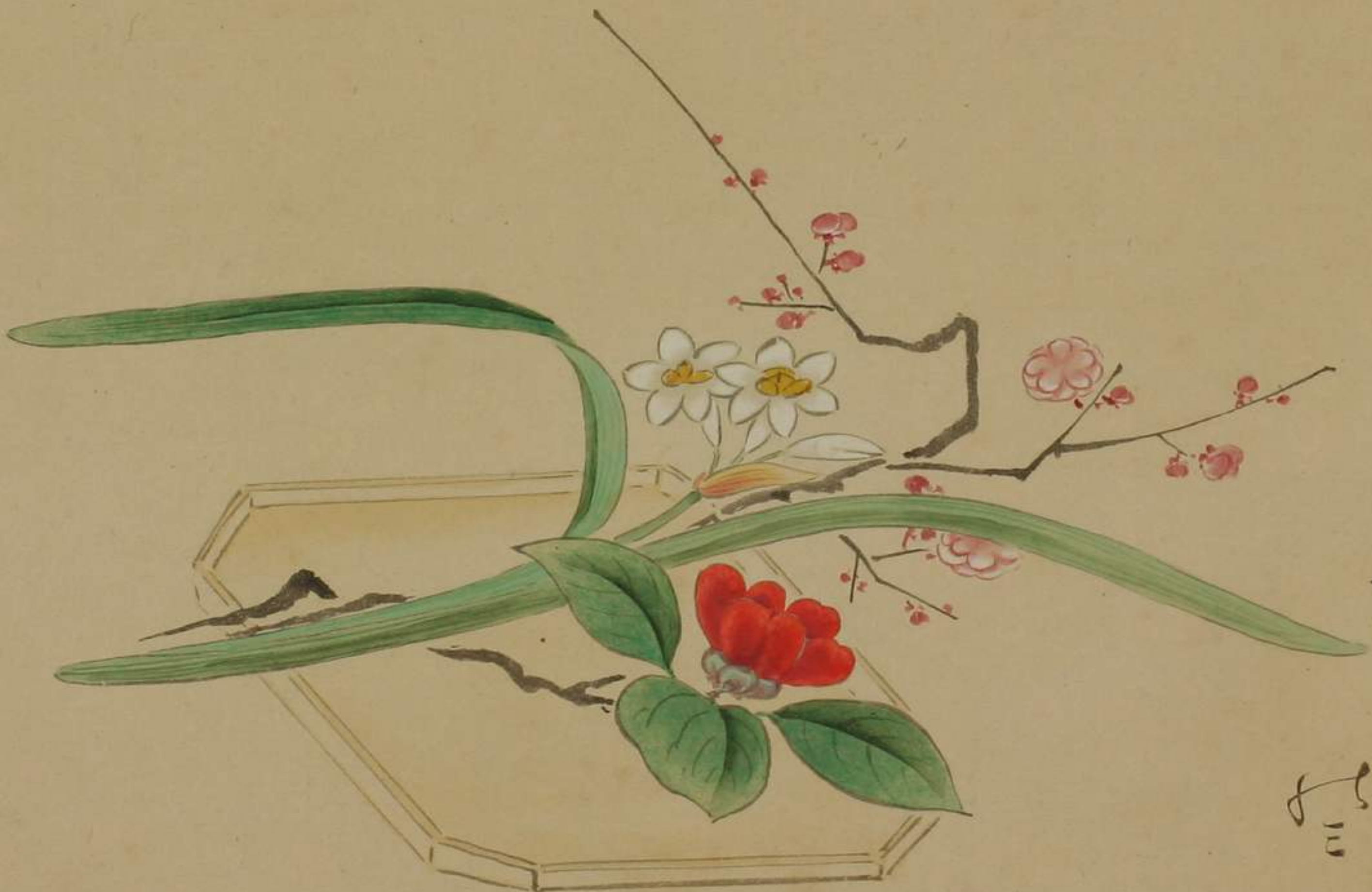


椿くはるま

なまよむら

海をよむ

梅乃花
むす



寧晃百合園と洋山子

なまよむら

寧見百合花之清心也
一

了如の

平の
心

鬼中
景

一
か
二
三
人



月乃母の

花

月乃母也

五月十日

ほろけ

尾花



浪子

了了

武藏野

知

た

武蔵野

紅梅

おの

もの

あ

あ

あ

あ



外郎石道とい梅まのい廿三年乃
内なる鞠まをほく一弾守曲
まりを得ゆわはれて或人衣
まをまし真じのやたは人の
鞠を紅きうりよと有る



外郎右近といぬまのいふ三乃
 内なる鞠を空に高く蹴り曲
 まりを得ゆるわらわへ或人衣
 更なる具はひのちたけ人の
 鞠を程よりうまくと有る

楊貴妃乃

何より

いふ

うま

い

い

い

乃



竹るくは極瓦東坡の譜よかくも
 うつゝいふの才れたる



いづれか
の
か

竹るくは 栞を東坡の譜よりに
くしつゝをのちたを



を乃のうたの
いぢあいの

いぢあいの

いぢあいの



なつこした敵の
ふちあひまゝに

はなはな
こころ



たつこした敵の
ふちあひまゝに



成人の世に...
いふ人...
乃其道...
...
...
...
...
...



紫垣を
一字律
乃
山
...
...
...
...



或人農方...
又言...

...
...

夢

い

あね
年福子



或人農方ふ所を給ふ
又言し可ふみそけり

くさくさをい

きんすう九音

いんすういん

かきんすう

かきんすう

かきんすう

とろいん

備分豆極

かきんすう



かきんすう

かきんすう

かきんすう

鹿の群れ
 山を渡る
 秋の風景
 静かなる
 山道



鹿の群れ
 山を渡る

上
 下



鹿の群れ
 山を渡る

竹島天乃一紙



上三
乃三
始八
下三
下三
下三

花入乃七知一決

何
何
何
何
何
何



け鳥を乃乃一紙

かゝるいふのうた

の小菰女郎也



十
雨
あ
あ
あ





九月十三日の月をくはるる
 武三郎をすけりていよ

武三郎

武三郎

武三郎

武三郎

たのしみ
 みるみる
 ありあり
 ありあり
 ありあり
 ありあり
 ありあり





武三郎をすけりて
九月十三夜の月をみたり

武三郎

月見

月見

月見

月見

月見

月見



武三郎をすけりて
九月十三夜

月見



Handwritten Japanese text in cursive style, likely a signature or inscription.



Handwritten Japanese text, possibly a title or a short inscription.

Multiple lines of handwritten Japanese text in cursive style, likely a signature or inscription.





五子竹の鳥

蘇子竹の鳥

鳥

一息もきんく

賢人となる



繪入紅奇

特 別
^9
4510
1